

## 執筆者紹介（執筆順、\*は編者）

①所属・肩書き、②主要著作、③お気に入りの都市空間と、それについてのひと言

### \* 大貫恵佳（おおぬき・さとか） はしがき・序章・第15章

- ① 駒沢女子大学人間総合学群人間文化学類人間関係専攻准教授（理論社会学）。
- ② 「パンデミックと剥き出しの生——『生命か経済か』という問いがつきつけるもの」『現代社会学理論研究』15：137-149, 2021年。  
「アレクシナ B. の奇妙な幸福——フーコーにおける『監禁的なもの』と『司法的なもの』」『社会学年誌』55：67-81, 2014年。
- ③ 空港（国際線出発ターミナル）。

### \* 木村絵里子（きむら・えりこ） はしがき・序章・第6章・コラム2

- ① 日本女子大学人間社会学部現代社会学科助教（文化社会学、メディア文化論、若者文化論）。
- ② 「大学生のソーシャルメディア利用の規定要因——Twitter, Instagram, TikTokに着目して」『メディア研究』102号、日本メディア学会、2023年。  
『場所から問う若者文化——ポストアーバン化時代の若者論』共編著、晃洋書房、2021年。
- ③ 近所のカフェ（ここで子の習い事が終わるのを待つ間が週末の貴重なひとり時間になっています）。

### \* 田中大介（たなか・だいすけ） はしがき・序章・第12章・第13章・コラム3

- ① 日本女子大学人間社会学部現代社会学科教授（社会学〔都市論、モビリティ論、メディア論〕）。
- ② 『ネットワークシティ——現代インフラの社会学』編著、北樹出版、2017年。  
『モール化する都市と社会——巨大商業施設論』共著、NTT出版、2013年。
- ③ 国立科学博物館（お気に入りというか、子どもにせがまれて10回以上行っています）。

### \* 塚田修一（つかだ・しゅういち） はしがき・序章・第4章

- ① 相模女子大学学芸学部メディア情報学科准教授（都市文化研究、メディア文化論）。
- ② 『国道16号線スタディーズ——二〇〇〇年代の郊外とロードサイドを読む』共編著、青弓社、2018年。  
『大学的相模ガイド——こだわりの歩き方』編著、昭和堂、2022年。
- ③ 東京ビッグサイト（〔私を含む〕オタクたちの汗と涙が染み込んでいる空間です）。

### \* 中西泰子（なかにし・やすこ） はしがき・序章・第7章

- ① 相模女子大学人間社会学部社会マネジメント学科教授（家族社会学、社会調査）。
- ② 『若者の介護意識——親子関係とジェンダー不均衡』勁草書房、2009年。  
『健康格差の社会学——社会的決定因と帰結』共著、ミネルヴァ書房、2022年。
- ③ 新宿三丁目 café ユイット〔閉店〕と京都北山の植物園（街中で本と緑とお茶を同時に落ちるいて楽しめる贅沢な空間です・でした）。

## 楠田恵美（くすだ・えみ） 第1章

- ① 筑波大学人文社会学系特任研究員（社会学〔都市論，消費空間論〕）。
- ② 『ネットワークシティ——現代インフラの社会学』共著，北樹出版，2017年。  
『モール化する都市と社会——巨大商業施設論』共著，NTT出版，2013年。
- ③ 東京日本橋（東京のこと，都市のことを考えるときに指針となる場所です）。

## 近森高明（ちかもり・たかあき） 第2章

- ① 慶應義塾大学文学部教授（都市空間論，文化社会学，技術社会史）。
- ② 『ベンヤミンの迷宮都市——都市のモダニティと陶酔経験』世界思想社，2007年。  
『無印都市の社会学——どこにでもある日常空間をフィールドワークする』共編，法律文化社，2013年。
- ③ 田町駅前のベダストリアンデッキ（田町駅は勤め先の大学の最寄り駅。通勤する中年男性から大学教授へと緩やかにシフトチェンジする空間として愛着があります）。

## 中沢明子（なかざわ・あきこ） 第3章

- ① ライター／エディター（カルチャー全般，ビジネス，地方再生）。
- ② 『埼玉化する日本』イースト新書，2014年。  
『遠足型消費の時代——なぜ妻はコストコに行きたがるのか？』（古市憲寿との共著）朝日新書，2011年。
- ③ 横浜ランドマークタワー（「横浜みなとみらい21」という港に出来た人工都市を象徴する超高層ビル。ホテルとショッピングモールと企業が入居していて，考え事をしながら，のんびりできる）。

## 松田美佐（まつだ・みさ） 第5章

- ① 中央大学文学部社会情報学専攻教授（コミュニケーション論，メディア論）。
- ② 『うわさとは何か——ネットで変容する「最も古いメディア」』中公新書，2014年。  
『ケータイの2000年代——成熟するモバイル社会』共編著，東京大学出版会，2014年。
- ③ 日比谷の劇場街（非日常の体験ができる夢の空間！）。

## 後藤美緒（ごとう・みお） コラム1

- ① 東日本国際大学健康福祉学部専任講師（歴史社会学，知識人論，大衆文化論）。
- ② 「話芸を書き残す——漫才作家秋田実と雑誌」阪本博志編『大宅壮一文庫解体新書——雑誌図書館の全貌とその研究活用』勉誠出版，2021年。
- ③ 駅周辺に広がる地下街（梅田ホワイトイの「泉の広場」の噴水，本当に惜しまれます）。

## 永田夏来（ながた・なつき） 第8章

- ① 兵庫教育大学大学院学校教育研究科准教授（家族社会学）。
- ② 『入門家族社会学』共編著，新泉社，2017年。  
『生涯未婚時代』イースト新書，2017年。
- ③ 新宿末廣亭（伝統を引き継ぎつつ，熱気あふれる「今」の東京がある）。

### 轡田竜蔵（くつわだ・りゅうぞう） 第9章

- ① 同志社大学社会学部社会学科准教授（地域社会学，若者論，グローバリゼーション論）。
- ② 『地方暮らしの幸福と若者』 勁草書房，2017年。  
『場所から問う若者文化——ポストアーバン化時代の若者論』 共編著，晃洋書房，2021年。
- ③ 富山県→東京都→岡山県→京都府と転居。留学先は北京。各地に思い入れのある都市空間があり，一つを選べません。

### 奥貫妃文（おくぬき・ひふみ） 第10章

- ① 相模女子大学人間社会学部社会マネジメント学科教授（労働法，社会保障法，社会福祉学）。
- ② 『リアル労働法』 共編著，法律文化社，2022年。  
『外国人の生存権保障ガイドブック——Q&Aと国際比較でわかる生活保護と医療』 共著，明石書店，2022年。
- ③ 近鉄京都線・橿原線・大阪線沿線（多感で未熟な青春の思い出がいっぱい。車窓の景色は変わっても，乗ると今も胸がきゅんとします）。

### 妹尾麻美（せのお・あさみ） 第11章

- ① 追手門学院大学社会学部社会学科准教授（社会学）。
- ② 『就活の社会学——大学生と「やりたいこと」』 晃洋書房，2023年。
- ③ 道頓堀（小学生の頃，習い事で週1回通っていました）。

### 大久保恭子（おおくぼ・きょうこ） 第14章

- ① 株式会社風代表取締役，一般財団法人住まいづくりナビセンター理事。
- ② 『どうする？親の家の空き家問題』 主婦の友社，2015年。  
『「最期まで自宅」で暮らす60代からの覚悟と準備』 主婦の友社，2019年。
- ③ 皇居一周ランニングコース（約5キロを走り抜ける間に皇居，丸の内・大手町のオフィス街，桜の名所千鳥ヶ淵公園，最高裁判所，国立劇場等々首都東京の象徴を体感できます）。